

1

解答解説のページへ

a を実数とし, 関数 $f(x) = x^2 + ax - a$ と $F(x) = \int_0^x f(t) dt$ を考える。関数 $y = F(x) - f(x)$ のグラフが x 軸と異なる 3 点で交わるための a の条件を求めよ。

2

解答解説のページへ

非負の整数 n に対して P_n を xy 平面上の点とする。 P_0 の座標を $(1, 0)$ とし、 P_n の座標 (x_n, y_n) と P_{n+1} の座標 (x_{n+1}, y_{n+1}) は

$$x_{n+1} = x_n - k(y_n + y_{n+1}), \quad y_{n+1} = y_n + k(x_n + x_{n+1})$$

を満たすとする。ただし k を正の実数とする。

- (1) $k = \tan\left(\frac{\alpha}{2}\right)$ とする。ただし $0 < \alpha < \pi$ とする。このとき P_1, P_2 の座標 $(x_1, y_1), (x_2, y_2)$ を α を用いて表せ。
- (2) P_n の座標 (x_n, y_n) を (1) の α と n を用いて表せ。
- (3) O を xy 平面の原点とすると、三角形 P_nOP_{n+1} の面積を k を用いて表せ。

3

解答解説のページへ

1つのサイコロを3回投げる。1回目に出る目を a 、2回目に出る目を b 、3回目に出る目を c とする。なお、サイコロは1から6までの目が等確率で出るものとする。

- (1) 2次方程式 $x^2 - bx + c = 0$ が少なくとも1つ整数解をもつ確率を求めよ。
- (2) 2次方程式 $ax^2 - bx + c = 0$ のすべての解が整数である確率を求めよ。
- (3) 2次方程式 $ax^2 - bx + c = 0$ が少なくとも1つ整数解をもつ確率を求めよ。

1

問題のページへ

a を実数とすると、 $f(x) = x^2 + ax - a$ に対して、 $F(x) = \int_0^x f(t) dt$ より、

$$F(x) = \int_0^x (t^2 + at - a) dt = \left[\frac{t^3}{3} + \frac{a}{2}t^2 - at \right]_0^x = \frac{x^3}{3} + \frac{a}{2}x^2 - ax$$

ここで、 $g(x) = F(x) - f(x)$ とおくと、

$$g(x) = \frac{x^3}{3} + \frac{a}{2}x^2 - ax - (x^2 + ax - a) = \frac{x^3}{3} + \left(\frac{a}{2} - 1\right)x^2 - 2ax + a$$

さて、 $y = g(x)$ のグラフが x 軸と異なる 3 点で交わる条件を求めるために、

$$g'(x) = x^2 + (a-2)x - 2a = (x+a)(x-2)$$

(i) $-a = 2$ ($a = -2$) のとき

$g'(x) = (x-2)^2 \geq 0$ より $g(x)$ は単調に増加するので、 $y = g(x)$ のグラフが x 軸と異なる 3 点で交わる場合はない。

(ii) $-a \neq 2$ ($a \neq -2$) のとき

$g'(x) = 0$ の解は $x = -a, 2$ となるので、 $g(x)$ は $-a < 2$ ($a > -2$) のとき極大値 $g(-a)$ 、極小値 $g(2)$ をもつ。また、 $-a > 2$ ($a < -2$) のとき極大値 $g(2)$ 、極小値 $g(-a)$ をもつ。

すると、 $y = g(x)$ のグラフが x 軸と異なる 3 点で交わる条件は、極大値と極小値が異符号、すなわち $g(-a) \cdot g(2) < 0 \cdots \cdots (*)$ であり、

$$\begin{aligned} g(-a) &= -\frac{a^3}{3} + \left(\frac{a}{2} - 1\right)a^2 + 2a^2 + a = \frac{a^3}{6} + a^2 + a = \frac{1}{6}a(a^2 + 6a + 6) \\ &= \frac{1}{6}a\{a - (-3 + \sqrt{3})\}\{a - (-3 - \sqrt{3})\} \end{aligned}$$

$$g(2) = \frac{8}{3} + 4\left(\frac{a}{2} - 1\right) - 4a + a = -a - \frac{4}{3} = -\left(a + \frac{4}{3}\right)$$

(*) から、 $a\{a - (-3 + \sqrt{3})\}\{a - (-3 - \sqrt{3})\}\left(a + \frac{4}{3}\right) > 0$ となり、

$$a < -3 - \sqrt{3}, \quad -\frac{4}{3} < a < -3 + \sqrt{3}, \quad 0 < a$$

そして、この不等式は $a \neq -2$ を満たす。

(i)(ii) より、求める a の条件は、 $a < -3 - \sqrt{3}$ 、 $-\frac{4}{3} < a < -3 + \sqrt{3}$ 、 $0 < a$ である。

[解説]

微分の応用に関する基本的な問題で、複雑な計算はありません。なお、最後の 4 次不等式の解は、グラフを対応させて求めています。

2

問題のページへ

(1) $P_0(1, 0)$ のとき, $n \geq 0$ に対し, $P_n(x_n, y_n)$ と $P_{n+1}(x_{n+1}, y_{n+1})$ の関係は,

$$x_{n+1} = x_n - k(y_n + y_{n+1}) \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad y_{n+1} = y_n + k(x_n + x_{n+1}) \cdots \cdots \textcircled{2}$$

①から $x_{n+1} + ky_{n+1} = x_n - ky_n$, ②から $-kx_{n+1} + y_{n+1} = kx_n + y_n$ とより,

$$(1+k^2)x_{n+1} = (1-k^2)x_n - 2ky_n, \quad x_{n+1} = \frac{1-k^2}{1+k^2}x_n - \frac{2k}{1+k^2}y_n \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$(1+k^2)y_{n+1} = 2kx_n + (1-k^2)y_n, \quad y_{n+1} = \frac{2k}{1+k^2}x_n + \frac{1-k^2}{1+k^2}y_n \cdots \cdots \textcircled{4}$$

ここで, $0 < \alpha < \pi$ として $k = \tan\left(\frac{\alpha}{2}\right) > 0$ とおくと,

$$\frac{1-k^2}{1+k^2} = \frac{1-\tan^2\left(\frac{\alpha}{2}\right)}{1+\tan^2\left(\frac{\alpha}{2}\right)} = \frac{\cos^2\left(\frac{\alpha}{2}\right) - \sin^2\left(\frac{\alpha}{2}\right)}{\cos^2\left(\frac{\alpha}{2}\right) + \sin^2\left(\frac{\alpha}{2}\right)} = \cos\alpha$$

$$\frac{2k}{1+k^2} = \frac{2\tan\left(\frac{\alpha}{2}\right)}{1+\tan^2\left(\frac{\alpha}{2}\right)} = \frac{2\cos\left(\frac{\alpha}{2}\right)\sin\left(\frac{\alpha}{2}\right)}{\cos^2\left(\frac{\alpha}{2}\right) + \sin^2\left(\frac{\alpha}{2}\right)} = \sin\alpha$$

すると, ③④は,

$$x_{n+1} = (\cos\alpha)x_n - (\sin\alpha)y_n \cdots \cdots \textcircled{5}, \quad y_{n+1} = (\sin\alpha)x_n + (\cos\alpha)y_n \cdots \cdots \textcircled{6}$$

そこで, $(x_0, y_0) = (1, 0)$ なので, ⑤⑥から, $x_1 = \cos\alpha$, $y_1 = \sin\alpha$

$$x_2 = \cos^2\alpha - \sin^2\alpha = \cos 2\alpha, \quad y_2 = \sin\alpha \cos\alpha + \cos\alpha \sin\alpha = \sin 2\alpha$$

(2) $n \geq 0$ のとき, $x_n = \cos n\alpha$, $y_n = \sin n\alpha$ であることを数学的帰納法で証明する。(i) $n=0$ のとき $x_0 = \cos 0 = 1$, $y_0 = \sin 0 = 0$ より成立している。(ii) $n=l$ のとき $x_l = \cos l\alpha$, $y_l = \sin l\alpha$ であると仮定すると, ⑤⑥から,

$$x_{l+1} = (\cos\alpha)x_l - (\sin\alpha)y_l = \cos\alpha \cos l\alpha - \sin\alpha \sin l\alpha = \cos(l+1)\alpha$$

$$y_{l+1} = (\sin\alpha)x_l + (\cos\alpha)y_l = \sin\alpha \cos l\alpha + \cos\alpha \sin l\alpha = \sin(l+1)\alpha$$

すると, $n=l+1$ のときも成立している。(i)(ii)より, $(x_n, y_n) = (\cos n\alpha, \sin n\alpha)$ である。(3) $P_n(\cos n\alpha, \sin n\alpha)$, $P_{n+1}(\cos(n+1)\alpha, \sin(n+1)\alpha)$ から,

$$\begin{aligned} \triangle P_n O P_{n+1} &= \frac{1}{2} |\cos n\alpha \sin(n+1)\alpha - \sin n\alpha \cos(n+1)\alpha| \\ &= \frac{1}{2} |\sin((n+1)\alpha - n\alpha)| = \frac{1}{2} |\sin\alpha| = \frac{1}{2} \sin\alpha = \frac{k}{1+k^2} \end{aligned}$$

[解説]

与えられた漸化式を変形して, ⑤⑥を導くことがポイントです。(1)はそのための誘導になっています。

3

問題のページへ

- (1) サイコロを 3 回投げ、1 回目に出る目を a , 2 回目に出る目を b , 3 回目に出る目を c としたとき、2 次方程式 $x^2 - bx + c = 0 \cdots \cdots (*)$ の解 $x = \alpha, \beta$ に対して、

$$\alpha + \beta = b \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad \alpha\beta = c \cdots \cdots \textcircled{2}$$

ここで、 $(*)$ の解の一方が整数とすると、 $\textcircled{1}$ から他方も整数となり、しかも $b > 0$, $c > 0$ から α, β はともに正の整数である。

そこで、 $0 < \alpha \leq \beta$ とすると、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ より、

$$2\alpha \leq \alpha + \beta = b \leq 6, \quad \alpha^2 \leq \alpha\beta = c \leq 6$$

よって、 $\alpha \leq 3$ かつ $\alpha \leq \sqrt{6}$ から、 $\alpha = 1, 2$ となる。

(i) $\alpha = 1$ のとき

(a) $\beta = 1$ のとき $(b, c) = (2, 1)$ (b) $\beta = 2$ のとき $(b, c) = (3, 2)$

(c) $\beta = 3$ のとき $(b, c) = (4, 3)$ (d) $\beta = 4$ のとき $(b, c) = (5, 4)$

(e) $\beta = 5$ のとき $(b, c) = (6, 5)$

(f) $\beta \geq 6$ のとき $b = \alpha + \beta \geq 7$ となり不適

(ii) $\alpha = 2$ のとき

(a) $\beta = 2$ のとき $(b, c) = (4, 4)$ (b) $\beta = 3$ のとき $(b, c) = (5, 6)$

(c) $\beta \geq 4$ のとき $c = \alpha\beta \geq 8$ となり不適

(i)(ii) より、 $(*)$ が少なくとも 1 つ整数解をもつ確率は、 $\frac{5+2}{6^2} = \frac{7}{36}$ である。

- (2) 2 次方程式 $ax^2 - bx + c = 0 \cdots \cdots (\#)$ の解 $x = \alpha, \beta$ に対して、

$$\alpha + \beta = \frac{b}{a} \cdots \cdots \textcircled{3}, \quad \alpha\beta = \frac{c}{a} \cdots \cdots \textcircled{4}$$

$(\#)$ の解がどちらも整数のとき、 $\frac{b}{a} > 0$, $\frac{c}{a} > 0$ から、 α, β はともに正の整数である。そこで、(1) と同様に $0 < \alpha \leq \beta$ として、 $\frac{b}{a} \leq 6$, $\frac{c}{a} \leq 6$ に $\textcircled{3}\textcircled{4}$ を適用すると、 $\alpha = 1, 2$ となる。

(i) $\alpha = 1$ のとき

(a) $\beta = 1$ のとき $(b, c) = a(2, 1)$ から、

$$(a, b, c) = (1, 2, 1), (2, 4, 2), (3, 6, 3)$$

(b) $\beta = 2$ のとき $(b, c) = a(3, 2)$ から、

$$(a, b, c) = (1, 3, 2), (2, 6, 4)$$

(c) $\beta = 3$ のとき $(b, c) = a(4, 3)$ から、 $(a, b, c) = (1, 4, 3)$

(d) $\beta = 4$ のとき $(b, c) = a(5, 4)$ から、 $(a, b, c) = (1, 5, 4)$

(e) $\beta = 5$ のとき $(b, c) = a(6, 5)$ から、 $(a, b, c) = (1, 6, 5)$

(f) $\beta \geq 6$ のとき $\frac{b}{a} = \alpha + \beta \geq 7$ すなわち $b \geq 7a \geq 7$ となり不適

(ii) $\alpha = 2$ のとき

(a) $\beta = 2$ のとき $(b, c) = a(4, 4)$ から, $(a, b, c) = (1, 4, 4)$

(b) $\beta = 3$ のとき $(b, c) = a(5, 6)$ から, $(a, b, c) = (1, 5, 6)$

(c) $\beta \geq 4$ のとき $\frac{c}{a} = \alpha\beta \geq 8$ すなわち $c \geq 8a \geq 8$ となり不適

(i)(ii)より, (#)のすべての解が整数である確率は,

$$\frac{(3+2+1+1+1)+(1+1)}{6^3} = \frac{10}{6^3} = \frac{5}{108}$$

(3) 2次方程式 $ax^2 - bx + c = 0$ ……(＃)の正の解 $x = \alpha, \beta$ に対して, α が整数, β が整数でないとする。すると, ③より $a \geq 2$ が必要である。ただし, (2)から,

$$(a, b, c) \neq (2, 4, 2), (3, 6, 3), (2, 6, 4)$$

(i) $\alpha = 1$ のとき $a - b + c = 0$ から, $b = a + c \geq 2 + 1 = 3$

(a) $b = 3$ のとき $(a, c) = (2, 1)$

(b) $b = 4$ のとき $(a, c) = (2, 2), (3, 1)$ となるが, $(a, c) = (2, 2)$ は不適

(c) $b = 5$ のとき $(a, c) = (2, 3), (3, 2), (4, 1)$

(d) $b = 6$ のとき $(a, c) = (2, 4), (3, 3), (4, 2), (5, 1)$ となるが,

$$(a, c) = (2, 4), (3, 3) \text{ は不適}$$

(ii) $\alpha = 2$ のとき $4a - 2b + c = 0$ から $2b = 4a + c \geq 8 + 1 = 9$ となり, $b \geq 5$

(a) $b = 5$ のとき $(a, c) = (2, 2)$

(b) $b = 6$ のとき $(a, c) = (2, 4)$ となるが, $(a, c) = (2, 4)$ は不適

(iii) $\alpha \geq 3$ のとき $a\alpha^2 - b\alpha + c = 0$ より, $6a \geq b\alpha = a\alpha^2 + c \geq 2\alpha^2 + 1$

すると, $6a - 2\alpha^2 \geq 1$ から $2\alpha(3 - \alpha) \geq 1$ となるが, $\alpha \geq 3$ から成立しない。

(i)~(iii)および(2)の結果より, (#)が少なくとも1つ整数解をもつ確率は,

$$\frac{(1+1+3+2)+1+10}{6^3} = \frac{1}{12}$$

[解説]

ていねいの場合分けをして数え上げるタイプの確率問題です。いろいろな解法が考えられますが, どのような方法であれ, 最後は力技となるでしょう。なお, 上の解答例では, (2)は(1)を誘導として, また(3)は(2)と少し視点を変えて記述しています。